

2014年11月17日
GRENE 北極気候変動研究事業
特別セミナー「北極海航路の利用実現に向けて」
総合討論発言メモ

北日本港湾コンサルタント（株）
企画部長 大塚 夏彦

北極海での事業活動は必要なのだろうかと考えてみた。さきの発言では、北極海における天然資源ポテンシャルとその重要性が指摘された。ヤマル LNG は進展しており、生産はもう間近となっている。これが始まると北極海航路の航行が大幅に増大する。また、こうした事業活動に関連した物流が拡大するであろう。これら事業活動に牽引されるかたちで、欧州・アジア間の北極海航路を通じた物流も徐々に拡大すると思われる。また水産および観光においても北極海への関心が高まっており、新たなアクティビティとして今後の利用が拡大するであろう。こうして今後、北極海を利用する北回りの新たな海上ネットワークが出現・拡大しようとする中で、他国の動向を静観しているだけでは、日本の港や日本のネットワークは埋没してしまう恐れがある。日本が上手に北極海航路による便益を受け取るとともに、地理的優位性や先進的な技術を背景に、国際海上ネットワークの拠点となることを望んでいる。同じく本討論においては、海上航行の安全に関して重要な発言があった。そこで指摘された多くの課題にこたえるうえで求められる技術やサービスを、今後実現していくことが必要である。

さらに北極海の利用に関しては、海中観測基地や機能性物質開発ラボ、宇宙観測基地など革新的な海洋環境利用のアイデアをもっと積極的に生み出し、若い世代がもっと関与して、夢のある活動も拡大してほしいと考えている。